

250

清記用紙(番号)

桃

写

天地人

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
炎天の若草山に逃 け場なし	炎天に終身晒さる 若草かた	田植終へ道に数 夕の泥乾く	能鈴は二つ夏山に 一礼	里南風や前に葉の 微調整	屋又鳥や一夜に音 を変えろ境	能出ると言われし 山の山開き	蚊には蚊の穴場が ありし繁華街	とつぎひの素直に 空を伺く姿勢	逆転に沸く炎天の スタジアム

代表選者

選句用紙

選者名 白井桃紅

1	2	3	4	特 別	特 別
ガウディの塔は火天突き抜けり	蚊には蚊の穴場がありし繁華街	サングルのジャンケンポンとひらく指	所在なく冷蔵庫開く三時かな	風鈴の揺れない街の鉄工所	能く鈴は二つ夏山に一礼
					梅干しや老犬となるぬいぐるみ

選句用紙

選者名 関 洋子

特	6	5	4	3	2	1
背後より水鉄砲で撃ちたれけり	いさかいの幼見 おさなみ 黙 もだ すなき氷	晴れるなと想ふ午後あり五月闇	濠 ほり の亀一生ここに蓮の花	炎天や耳鳴りといふ管楽器	泥 でい 中 ちゆう の蓮 はす を散華 さんげ にひめゆり己	穂 ほ 含 ふみ 月 づき 校舎に響 とよ む子らの声

選句用紙

選者名 福田 洗弥

特	6	5	4	3	2	1
ただいまの「ま」の音 おと 上がり夏の雲	花盛 さか る矢車草の夜明け前	泥中 でい ちゆう の蓮 はす を散華 さんか にひめゆり忌	風鈴の揺れない街の鉄工所	古墳より千年の蟬 せみ いっせいに	往來の途切れ城下七変化	遠雷 えんらい やちぐらの奥に丸眸 まるまき

選句用紙

選者名

服部 梅句

1	夏御膳酒一口に京の風
2	田植終へ道に敷 ^{あまた} の泥乾く
3	炎天を沈めて黒き太平洋
4	サイガーヤ齒列正しき頭蓋骨
5	腕時計外して気付く日焼けかな
6	また守 ^や 宮 ^{もり} 来るかと母の厨 ^{くりや} の灯 ^ひ
特	炎天や陰を導 ^{しるべ} に遠回り

選句用紙

選者名

宮本 乙子

1	梅干しや老大となるぬくみお
2	白きしの馴梁せ埋まる朝のハス
3	火天やに装備するべしカー
4	千原平華博賢強記念舎五草
5	屋久島や一夜に音を変えし境
6	所在なく冬蔵庫開く三時かな
特	梅雨晴や洗ひ晒しの空と風

選句用紙

選者名 山崎 仁

特	6	5	4	3	2	1
炎天へ麒麟はい首をもてあまし	炎天に総身 そうみ 晒 さら せる若さかな	炎天の若草山に逃げ場なし	また守宮 やもり 采るかと母の厨 くりや の灯 ひ	祇園会や鍛改めの組踊る	月涼し曲がりくねった峠道	炎天の誰も便えぬ遊目かな

選句用紙

選者名 友澤 一 途

特	6	5	4	3	2	1
風鈴の揺れない街の鉄工所	中学生になったくわいの青田かな	能い出ると言われし山の山開き	白シャツの馴染みで埋まる朝のバス	火火昼や患者のいない昼下がり	串刺しの竹も焦がして鮎を焼く	僧坊の水面 みなも に虫 くら のゐる戸口

選句用紙

選者名

山下疾風

6	5	4	3	2	1
炎天を沈めろ黒き太平洋	掬 ^く えない金魚掬 ^く いや目に涙	丸山や蛇 ^だ 行 ^{こう} 剣 ^{けん} ごと白 ^{はく} 雨 ^う 刺す	いさかいの幼 ^{おさなご} 児 ^{もた} 黙 ^{もく} すかき氷	車 ^{くるま} いす押した夏の目いまいひとり	炎 ^{えん} 昼 ^{じつ} の龍 ^{りゅう} 衣 ^い ひくるごとゴッホの黄 ^{きいろ}

選句用紙

選者名 山本 正晴

1	炎天の涯 ^{はて} まで青き信号機
2	秋 穂 ^{ほふみ} 含 ^つ 月 ^{つき} 校舎に郷音 ^{とよ} お子らの女声
3	炎天を決めて黒き太平洋
4	炎天や陶の狸の大ふぐり
5	哥 ^か ふどう兄になる日をまだ知らず
6	晴れるなと思ふ午後あり五月闇
特	炎昼の龍衣ひくるごとゴッホの黄

選句用紙

選者名 英彦

特	6	5	4	3	2	1
帰省子の夕弁気になる夕餉かな	頂くも贈るもやはり夏野菜	豪 ^{ほり} の亀 一生ニニに蓮 ^{はす} の花	風鈴の揺れない街の鉄工所	車いす押した夏の日いまひとり	サングルのジャンケンポンとひらく指	火天やフル装備するベビーカー

選句用紙

選者名

近藤和草

特	6	5	4	3	2	1
達 筆な暑中見舞いの青い文字	ロキかぬ人へ初どりニトロト	背後より水鉄砲で撃たれけり	寝苦しき夜や夏掛の頼りなき、	炎天の瘡まぐ青の信号機	青ふとう兄になる日をまだ知らず	炎天へ麒麟は首をもてあまし

選句用紙

選者名

文蔵

特	6	5	4	3	2	1
また守宮来るかと母の厨の灯	火天や色には出でず稚児禿	風鈴の揺れない街の鉄工所	大原女に薄化粧して雪の下	串刺しの竹も焦かして魚を焼く	半夏雨上がる小径の草いこれ	ハンケチを貸して始まる恋もあり

選句用紙

選者名 善野 娘

1	2	3	4	5	6	特
薄色や矢車花の夜明け前	帰省子の多年気になる夕餉かな	泥中の蓮を散華にひめゆり忌	風鈴の揺れない街の鉄工所	孔明の如き葉裏の蝸牛かな	梅雨明けでゆるりとさするふくらはぎ	青ばどう兄になる日をまだ知らず

選句用紙

選者名

上田秋霜

1	蚊には蚊の穴場がありし繁華街
2	車いす押した夏の月いまひとり
3	炎天へ麒麟は首をもてあまし
4	逆転に沸く炎天のスタジアム
5	祇園会や籤改 くしあんめ の紐踊る
6	往來の途切れて城下七変化
特	炎昼の龍衣ひくるごとくツボの黄ハ

選句用紙

選者名 真一

1	梅雨明けや洗ひ晒しの空と風
2	ガウディの塔は炎天突き抜けリ
3	炎天や耳鳴りといふ管楽器
4	熊鈴は二つ夏山に一礼
5	晩時計外して気付く日焼かな
6	旅枕星と螢の小宇宙
特	炎昼の寝ひくるごとゴッホの夢

選句用紙

選者名

飯田 守彦

1	2	3	4	5	6	特
古墳より千年の蟬いつせいに	炎昼の龍衣ひくるごとゴッホの黄	すこてこやお皿の端にマヨネーズ	風鈴の揺れない街の鉄工所	炎天へ麒麟は首ともてあまし	苔を抱き声探りとり夏椿	泥中の蓮を散華にひめやり己い

選句用紙

選者名 二 晃

10	9	8	特	6	5	4	3	2	1
			串刺 くし の竹も焦 や がして鮎 あゆ を焼く	炎天やフル装備するヘビーカー	僧坊の水面に蛇のぬる くろ さ	炎天へ麒麟は首をもてあまし	帰省 きせい 子の多弁 たべん 気になる夕餉 ゆきう かな	かうテイの塔は炎天突ま抜けリ	また守宮来るかと母の厨 くしやう の灯

選句用紙

選者名

富野香衣

1	炎天の海 ^{うみ} はまの信 ^{しん} ち ^ち 機 ^き
2	すくてもやお田の ^う 藍 ^{あゐ} にスミネース
3	中学生になつてこの青田かな
4	たがいまの「ま」の音はがく夏の雲
5	屋久島や一夜に音を変えたる境
6	黒南 ^{くなん} 国 ^{こく} や煎 ^{せん} じ ^じ 菜 ^{さい} の飯 ^い 調 ^{てう} 整 ^{せい}
特	中空に影の生まれて揚羽蝶

選句用紙

選者名

に
あ

特	6	5	4	3	2	1
炎帝に曲辰引き継ぐと告げにけり	ただいまの「ま」の音上がり夏の雲	濠 ^{ほり} の亀一生ここに蓮の花	火天へ麒麟 ^{きりん} は首をもてあまし	いさないの幻 ^{まぼろし} 児 ^こ 黙 ^{もく} すかき氷	似合ふのは裕次郎だけサングラス	火昼やレシビの不要の男飯

選句用紙

選者名

花山

特	6	5	4	3	2	1
た だ い ま の ま の 音 上 か り 夏 の 雲	又 天 や フル 装 備 す る ベ ビ ー カ ー	パ ー を 出 し パイ ナ ッ ス ル で 六 歩 跳 ね	又 天 の 麒麟 は 首 を も て あ そ ぶ	又 天 や 耳 鳴 り とい ふ 管 楽 器	また 守 宮 来 る か と 母 の 厨 の 灯	僧 坊 の 水 面 に 蛇 の み る 昏 さ

選句用紙

選者名

へちま

特	6	5	4	3	2	1
蚊には蚊の穴場がありし繁華街	炎天や陶の狸の大ふぐり	中学生になつたくらいの青田かな	風鈴の揺れない街の鉄工所	炎昼やレニセ。不要の男飯	所在なく冷蔵庫開く三時かな	炎天の涯まで青の信号機